

楚江乙母

【江乙】カウイン 江乙のことは『戰國策』楚策に見える。醜の人で、後に楚の宣王(前三六九—三四〇在位)に仕えた。「虎の成を借る狐」の語は有名。『参考』

【宣王】(我王)は、前五九〇—五六〇在位で『戰國策』と合わない。『校注』(楚)「宣王」作「宣王」、非字傳寫之誤。

【鄂】エー。『校注』(鄂)「鄂」注云、鄂、楚都。今の湖北省江陵県の北西。

【令尹以罪乙】令尹レイキン、楚の官名。『校注』(令尹)「令尹」云、令尹昭奚恤。『参考』

【細之處家】官職を奪って謹慎を命じたのであろう。細チュウニ臨

【布八尋】(補注)八尺爲尋。八尋、長六丈四尺也。亡、失也。

【小曲之意】(補注)高殷の名。

【常法】(補注)「如きものがあつたのであろう。身」云つからは。『案何』如何

【孫叔敖】ソン・シウカウ 『孫叔敖母』

【閉】一関、かんぬき。『補注』(閉)「以」は、持門戸也。

【自息】(補注)「息絶えること。息は、やむ。耳目不明」(補注)「明でないこと。耳目がしじもまでゆきとどかないこと。

【公行】(補注)「公行すること。『校注』(公行)「作」從橫。

【惡盜】(補注)「惡盜」

【吁】(補注)「感嘆の語。

【坐】(補注)「進坐すること。

【周武王有言】(補注)「百姓に過有るは、予一人に在り」

【理】(補注)「治也。

【銀】(補注)「銀也。

【金貨】(補注)「金貨の目方の単位。

【誤】(補注)「辭退すること。

【干】(補注)「干部もむ。

【以微喻】(補注)「微言、微辭の意、奥かかいは。『補注』(微)「微辭の意、奥かかいは。』

【詩云】(補注)「大雅、板蕩。『獸のいまだ遠からず、ここをもつて大いに疎む』

【也】(補注)「イウ・大部九画 今本は「也」と作る。』

【動心】(補注)「動心、動也。

【狐】(補注)「楚の別称。

楚大夫江乙之母也。當恭王之時、乙爲郢大夫。有入王宮中

盜者。令尹以罪乙、請於王、而細之處家。無幾何、其母亡

布八尋。乃往言於王曰、妾夜亡布八尋。令尹盜之。王方在

小曲之臺、令尹侍焉。王謂母曰、令尹信盜之、寡人不爲其富

貴而不行法焉。若不盜而誣之、楚國有常法。母曰、令尹不

身盜之也。乃使人盜之。王曰、其使人盜奈何。對曰、昔孫

叔敖之爲令尹也、道不拾遺、門不閉關、而盜賊自息。今、

令尹之治也、耳目不明、盜賊公行。是故使盜得盜妾之布。是

與使人盜、何以異也。王曰、令尹在上、寇盜在下。令尹不

知、有何罪焉。母曰、吁、何大王之言過也。昔日、妾之子爲

郢大夫、有盜王宮中之物者。妾子坐而紉。妾子亦豈知之哉。

然終坐之。令尹獨何人而不以是爲過也。昔者、周武王有言、

曰、百姓有過、在予一人。上不明、則下不治。相不賢、則

國不寧。所謂國無人者、非無人也。無理人者也。王其察之。

王曰、善。非徒譏令尹、又譏寡人。命吏償母之布、因賜金

十鎰。母讓金布曰、妾豈貪貨而干大王哉。怨令尹之治也。

遂去不肯受。王曰、母智若此、其子必不愚。乃復召江乙而

用之。君子謂、乙母善以微喻。詩云、猷之未遠、是用大諫。

此之謂也。

頌曰、江乙失位、乙母動心。既歸家處、亡布八尋。指責令尹、

辭甚有度。王復用乙、賜母金布。

〈參考〉『戰國策』楚策

荆宣王問羣臣曰、吾聞北方之畏昭奚恤也。果誠何如。羣臣莫對。江乙

對曰、虎求百獸而食之、得狐、狐曰、子無敢食我也。天帝使我長百獸、

今子食我、是逆天帝命也。子以我爲不信、吾爲子先行。子隨我後觀、

百獸之見我、而敢不走乎。虎以爲然、故遂與之行。獸見之皆走。虎不

知獸畏己而走也。以爲畏狐也。今王之地方五千里、帶甲百萬、而專屬

之昭奚恤。故北方之畏奚恤也。其實畏王之甲兵也。猶百獸之畏虎也。